

セコムテクノサービス 株式会社

クラサバと全く同じ操作性とレスポンス向上を実現
全国62拠点で利用するRIAシステムを Magic uniPaaS® で構築

セコムテクノサービス株式会社は、資格管理システムと経理支払依頼システムを Magic uniPaaS® の RIA で構築しました。



クラサバと Web システムの長所を合わせ持つ RIA

セコムグループの一社である、セコムテクノサービス株式会社は、オンライン・セキュリティのためのセキュリティシステム工事及び、建物設備のメンテナンスを行う会社です。これらの事業を柱に、建築設備工事やエンジニアリング、マンションセキュリティ、安全商品の販売など、ビルやご家庭の安全・安心・快適を支えるサービスを提供しています。セキュリティ機器に精通した同社は、長年蓄積してきた高度な技術、ノウハウを駆使し、社会へ「安全・安心」をお届けするセコムグループの一翼を担っています。

同社では、従業員が取得している資格を管理する、『資格管理システム』と、社内のクラサバで構築されていた『経理支払依頼システム』を Magic uniPaaS® で RIA 化を図りました。その経緯について、企画審査室情報システム課係長 三宅 騰氏は、次のように振り返ります。

「これまで当社では、Magic V8 によるクラサバと、Magic V9 による Web システムという二本立てでシステム開発を行ってきました。どちらも一長一短がありますが、V8 のクラサバは、全事業所のパソコンに配布するプログラム更新作業に手間がかかるという短所があります。一方、V9 の Web システムは、ユーザーインターフェースがクラサバに比べて見劣りがします。

これに対して、RIA はクラサバと Web

システム、それぞれの良い面を持ったソリューションの提供が可能と考えていました。RIA の開発が出来る uniPaaS® は、既に導入だけはしていたのですが、まだ開発には利用していませんでした。初めて利用するソリューションですので、適度な開発ボリュームの案件を探していたのです。そこにタイミングよく、案件として出てきたのが、資格管理システムの構築です。資格管理システムは、比較的他のシステムと連携のない社内システムですので、最初の事例として適切との判断の下、RIA での開発が決まりました。」

システム開発の基盤を作るため RIA を選択

セキュリティ、メンテナンス関連の事業を行うに当たっては、国家資格を有する従業員が必要な場合があります。同社では、情報関連や電気工事関連など、事業に関わる様々な資格を持った従業員がいますが、これまでは紙ベースで管理を行っていました。

「本社であれば、誰がどの資格を持っているか、ある程度の把握はできていました。しかし、資格によっては期限があり、更新手続きが必要なものがあります。その管理ができていなかったため、機能として盛り込みたかった、というのがシステム構築を考えた理由の一つです。あとは、紙で管理するのではなく、資格を取得した従業員が、所属する事業所で端末に入力する形にし、データとして管理できるようにしたいと考えていました。」(三

USER PROFILE

セコムテクノサービス 株式会社

<http://www.secom-techno.co.jp/>

- 本社 東京都中野区弥生町5丁目
6番11号 STABLE NAKANO
BLDG.
- 設立 1970年5月21日
- 資本金 23億5,781万円
- 従業員数 1,279名
- 事業内容
 - ・防犯、防火、防災等安全管理設備に関する設計、監理、施工、定期点検及び保守並びに保全業務
 - ・電気工事、電気通信工事、消防施設工事、土木工事及び一般建築工事の設計、監理、施工
 - ・空調調和、給水、排水、衛生設備及びその他の管工事の設計、監理、施工
 - ・公害防止機器及びその他の産業機械器具の製造販売並びに据付工事の設計、監理、施工
 - ・建物及び各種付属設備に関する設計、監理、施工及び維持管理業務 など



岩澤孝二氏
セコムテクノサービス株式会社
企画審査室情報システム課
課長



三宅騰氏
セコムテクノサービス株式会社
企画審査室情報システム課
係長



平田昌敬氏
セコムテクノサービス株式会社
企画審査室情報システム課

セコムテクノサービス 株式会社

宅氏)

一方、経理支払依頼システムをRIAに移行したことについて、企画審査室情報システム課 平田 昌敬氏は、「経理支払依頼システムは、Magic V8のクラサバで構築していました。しかし、V8のサポート期間が終了したため、バージョンアップの必要性に迫られていました。現場からは、これまでと機能的に全く同じシステムを構築して欲しい、という要望がありました。ちょうどuniPaaS®がリリースされた頃でしたので、更新するのであれば、今後のシステム開発の土台となるものを作ろうと考えてuniPaaS®を使ったRIAでの構築を選択しました。」と、導入の経緯を語ってくれました。

クラサバでの開発と変わらぬ生産性でレスポンスの速いRIA

両システムの構築はほぼ同時期にスタートし、資格管理システムが先に、次いで経理支払依頼システムがリリースされました。

これまでのクラサバとRIAとの開発の変化について三宅氏および平田氏は、次のように印象を話してくれました。

「作り方はかなり変わったという印象で、今までのコマンド等との対比を理解するのに少し時間がかかりました。しかし、一度理解してしまえば、これまでのクラサバの開発と同じように扱えます。Magicの特徴の一つである生産性の良さも、変わらないと思います。導入時には、利用部門からのクレームもなく、トラブルなしでスムーズに稼動することができ

ました。両システムとも、全国62拠点で利用されていますが、RIAにしてから、レスポンスはクラサバよりも速くなっています。」(三宅氏)

「今回の構築で、RIAを使って、クラサバと全く同じ動きが作れることがわかりました。RIAの開発は、データベースのトラフィックを軽くする作り方を意識して構築することが、開発をスムーズに行うポイントです。今後、ユーザーインターフェースの充実が要請されるようなシステムは特に、RIAで構築していきたいと考えています。」(平田氏)

今後の展開について、企画審査室情報システム課課長 岩澤孝二氏は、「RIA開発の試みは非常にスムーズに実現するこ

とができました。今後は、uniPaaS®の機能を十分に活用し、WebシステムとRIAのすみ分けをうまく行って、システムを提供していきたいと考えています。」と、今後の導入にも意欲的です。

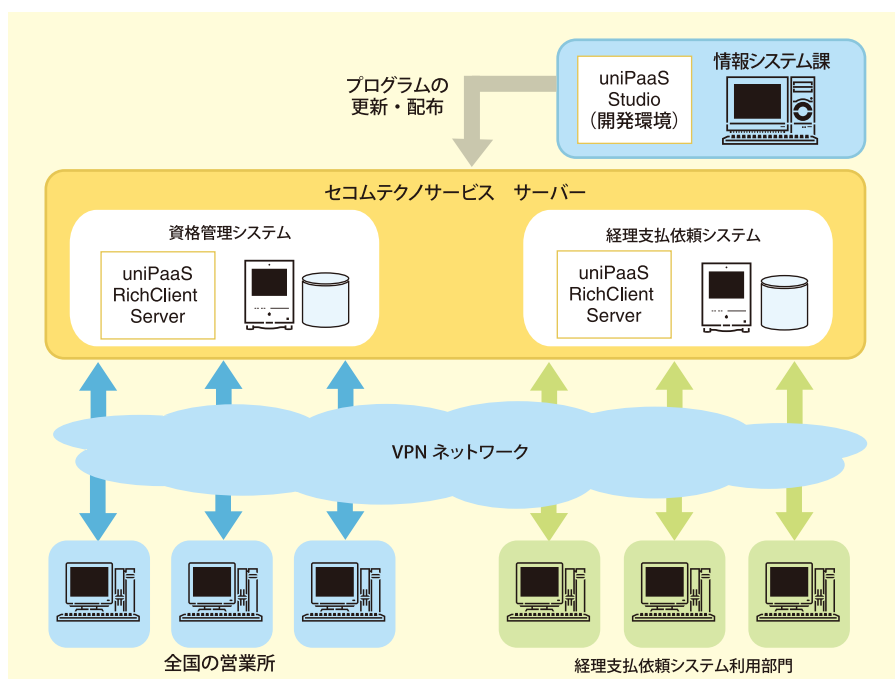


図 セコムテクノサービスの資格管理システムと経理支払依頼システムの概要